

---

# 鬼遊び

九九ノ字 佳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鬼遊び

### 【Nコード】

N7190Y

### 【作者名】

九九ノ字 佳

### 【あらすじ】

森の奥で迷子になっていた幼い頃の私を助けた「彼」との約束を16歳の誕生日の日に思い出す。それが全ての始まりだった。  
人と妖怪の少し歪んだ恋愛話です。

## 昔の約束

町の人工的な明かりが無くなる森の奥。

夜の時間帯に姿を照らすのは月明かりのみ。

そんな時間帯に森の奥で迷子になってしまった幼い頃の私に

現代では見ることが少なくなってきた着物を正しく着こなした「彼は笑いながら言ったんだ。

「僕とある約束をしてくれるなら助けてあげますよ。どうします?」

幼い頃の私は優しくそうで、人が安心するような笑顔と早く帰りたいという思いから

「彼」の言葉に頷いていた。それが間違いだと気づくことすらしよ  
うとせずに。

知らず知らずのうちに私は取り返しのつかないことをしてしまった。

私と「彼」の約束は

「それでは16になったら迎えに行きます」

共に生きていくことであつたからだ。

まえぶれ

白い梅木は赤染まる

ゆらり　ゆらりと

人、地に落ちた

オニゴッコ

いつも通りの朝だった。

自分が病気になったわけでもないし、

親や友達が怪我をしたわけでもない。

特に何かがあったわけでもない普通の朝だった。

だけど

どうしてか私はおかしかった。

一つ、一つの動作にもびくびくしてしまつて体。

友人に声をかけられただけなのに

どくどくと激しく動き出す心臓。

回りの視線に恐怖が止まらない。

どうして

こんなにも

不安になるのかわからなかった。

学校に行く道の途中で

泣きそうになる。

自分が自分じゃないような気がして立ち止まりたくなつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7190y/>

---

鬼遊び

2011年11月21日16時19分発行